

「夫婦別姓を巡って彼女と拗れています。

先生はどう思いますか？」

令和元年9月18日

●先生さんからの質問

先生は夫婦別姓についてどのような考えをお持ちですか。私事ですが、最近結婚が決まり、婚約者と結婚に向けての話し合いを行っているところです。しかし、その中で姓を夫側にするか、妻側にするかで意見が対立し、結婚が流れる寸前まで話し合いが拗れました。また、私の友人でも1組ですが、姓の問題で結婚がなくなったカップルがいます。結婚をしないで子供を育てるカップルが少ない日本で夫婦別姓が認められないのは国にとってもよくないと感じましたが、西田先生のご意見を教えてください。

●西田昌司の答え

夫婦別姓推進派からは、男女同権の世の中なのになぜ女性のみが改姓しなければならないのかといった声が上がっていますし、女性の社会進出が叫ばれている昨今では仕事のやりやすさ（女性が姓を変えることによる不便さの解消）という観点からも夫婦別姓が求められています。確かに、長年使ってきた姓を変更することによって仕事がやりにくくなるという側面はあるでしょうが、そのような問題に対しては、通称名（結婚する前の姓）の使用を認めて仕事を続けやすくする環境を整備すれば解決しますし、それについて私は反対していません。しかし、夫婦別姓の問題の本質はそういった表面的なものではありませんし、今を生きる我々の生を次の世代につないでいくことの困難さに我々は直面しているのです。

一人っ子同士の男女が結婚する場合、男性側に姓を合わせると女性側の家系が途絶えますし、逆に女性側に姓を合わせると男性側の家系が途絶えま

す。だから夫婦別姓を認めるべきだ、との主張がされるのですが、たとえば夫婦別姓を認めたとしてもその夫婦が二人以上の子供を産まない限り跡継ぎ問題は解決しませんし、お墓も守れません。つまり、少子化問題が根源にあるのです。

実は私にも跡継ぎ問題がありました。私は西田家の四人兄弟姉妹（長男、長女、次男、次女）の長男、家内は安田家の二人姉妹（長女、次女）の長女でしたが、私が家内と結婚して西田家に迎え入れたために安田家の跡継ぎ問題が生じました。私は三人の子供（長男、次男、長女）を授かりましたが、私は次男に安田家を継いでもらうべく、次男が成人した時点で姓を西田から安田に改姓させました。次男はこれから安田家の相続人としてお墓を守っていくこととなりますが、長男が西田家を継いでいきますので、私の場合は子宝に恵まれたことで跡継ぎ問題を解決できました。（しかし、私が跡継ぎ問題に苦慮したにもかかわらず、私の三人の子供はまだ誰も結婚していません。子供たちが結婚して次の世代を産んでくれないことには私も安心できません。）

夫婦の姓を同じくして家の絆を深めるという日本の伝統的な家族観を否定して日本を弱体化せんという左翼的・進歩主義的な発想が夫婦別姓推進派の根底にあるように思います。彼らは夫婦別姓によって自由が得られるという錯覚に陥っているようですが、家系を引き継いで次の世代に渡すという一見不自由な慣習が社会全体の紐帯となっていることに気付かなければなりません。

先日、ニューヨーク州立大学教授のステファニー・ケルトンさんが来日されましたが、彼女は結婚する以前はステファニー・ベルさんでした。彼女は有名な大学教授ですが、（そのような社会的ステータスを持つ女性であっても）改姓後の名が通るようなことがアメリカにおいてもあるということを知ってちょっとびっくりしました。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>